

# 東部日本語ボランティアネットワーク 第20回定例会議事録

2017年6月24日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

【参加者】13名 (のびっこ) 石井/渡辺(富士宮) 望月/佐野/垣内(沼津) 虎谷/相田、(裾野) 吉田、(伊豆の国) 久木野、(個人) 西村、(アモール) 岡田/柴本/藤田 (以上敬称略)

(1) 各団体活動報告 (1時間)

## のびっこクラブみしま (石井さん)

### 1. 高校受験

私立高校…2名、県立定時制高校…2名

裾野高校外国人枠受験ができるかと思ったが、国籍が日本だったためできなかった。日本国籍の外国ルーツの子が増えている実情に合わないのではないか。

### 2. 昨年度活動状況

- ・会員20名 (うち5名はアモール以外の学生)
- ・学習者 延べ309人 (フィリピン、ペルー、アルゼンチン、ブラジル、中国、ボリビア、コロンビア、スペイン、ベトナム、台湾、スリランカ、インドネシア、日本)
- …多国籍化、技能実習生などの社会人の増加、学習目的の多様化
- ・のびっこクラブ43回
- ・クラスぼよ29回
- ・その他…外国人のための新春パーティ (NHK 共同募金会助成)  
プログラミング教室、異文化講座  
季節の行事 (七夕、クリスマスなど) …クリスマスは日大三島高校にて

### 3. 4月から

- ・アモール1年10人
- ・5月こどもの日パーティー、6月BBQ (近い、安い、家族も参加しやすい)
- ・1月に企業経営研究所、5月に国際ソロプチミスト伊豆天城の表彰  
→ラミネーター、ストッカー、台車、タープなどを購入、リーフレット注文 (印刷通販)
- ・新リーフレット作成にあたり銀行口座を団体名義に変更  
…会則改正などをクリアして (設立年月日、所在地を代表宅におく)
- ・不登校対策…家庭の問題→青少年相談、子どもと外国人相談員に相談  
学校でのいじめ→青少年相談、保護者と外国人相談員に相談。日本語に不自由しない親「外国人市民相談」を知らなかった。学校にしか訴えるところがないと思っていた。中学のいじめは悲惨。「学校へくるな」「給食泥棒」
- ・その他  
日本語学校見学&入学手続きへの付添い、  
子育てを終えた親への支援…就職支援、病院付添い

### のびっこクラブみしま（渡辺さん）

#### 個別事例の紹介

- ・ 日本国籍を持っていることで、高校の外国籍枠に入れない子供の事例  
英語はできるものの、日本語は出来ないので学習が必要だが、制限がかかってしまった。親が県教委、学校にかけあって、結果的に2年生に編入することができた。
- ・ 出身国で高校を卒業し、日本で日本語学校に通っている方の事例  
ちょうど今年沼津で開校した日本語学校に入学した。なおこの日本語学校は、カリキュラムなど話を聞きに行ってみたところ、信頼できそうだったので、皆さんも参考にしたい。

### 裾野市海外友好協会（吉田さん）

- ・ 会としては学校に入り込む活動はしていない。
- ・ 教室での最近の生徒数は10名前後であり、無料になってから多くなっている。中国人、ベトナム人が多い。
- ・ 企業から外国人を教室に送るといった話をもらうことが増えてきた。
- ・ 先生の入替えが多少あったが、人数としては変わらず15人程度である。

### 伊豆の国市国際交流協会（久木野さん）

- ・ 日本語話そう会を毎週火曜夜、年間40回程度開催している。
- ・ 生徒としては実習生、ALT、結婚して日本に住むようになり日本語が出来ない人が多い。国としては東南アジアが多い。ALTは白人など英語圏の方が多い。
- ・ 先生は20人程度登録しているが、出席者が少ない時は一人で数人教えることもある。
- ・ 学校に入り込む活動はしていない。

### 日大アモール（柴本さん）

- ・ アモールでは学習支援やイベントの企画を行なっている。
- ・ 勉強は学習者に合わせて行なっている。検定を取りたい方や受験生がいるので特に気を使って支援をしたい。学習者は日によって教室いっぱいの日もあればあまり来ない日もあります。
- ・ イベント  
1月 お正月（南米のピエロを呼びお正月パーティーなどを通し色々な国のお正月を学んだ）  
2月 てんとうむし文庫の読み聞かせ  
3月 スポーツ大会（スポーツ少年団のウィンズさんと連携）  
5月 こどもの日イベント（こどもの日について楽しみながら学んだ）  
6月 バーベキュー（親交を深めるため。ラマダン中の実習生の方にも参加していただいた）  
7月 セブイベントを予定  
今後も色々企画している。

### 日大アモール（岡田さん）

- ・ もうすぐ夏休みが始まり、学習者が宿題を持ってくると聞いているので、そちらの支援をしたい。
- ・ 先日石井さんに、御殿場のふじさん教室の見学に連れて行っていただいた。三島の方が年齢層が高いと感じた。小6の子を見たが分数など算数でつまづいている子が多く、教える方も対応できるようにすることが大事だと感じた。

### 日大アモール（藤田さん）

4月から始めたばかりでまだ経験が浅い。子供達に教える立場について不安もあるが、イベントなどを通して子供達と関わり、自分も学び続けて経験を積んでいきたい。

### 富士宮市国際交流協会（佐野さん）

- ・ 学校での支援については、小3、小4の男子の日本語支援に週2回入っている。小4の子は会話が難しく、指導で苦慮していたが、できるようになってきた。継続していきたい。小3の子は小5になる時に米国に帰国する予定のため、学習意欲も中途半端になりがちである。相談しながらやっている。
- ・ FAIR日本語教室では、第1,2,4日曜10時から1時間半、ベトナムの青年3,4人に日常会話を教えている。学習者の間にレベル差があるところが苦労する点である。人数に随時増減がある。

### 富士宮市国際交流協会（望月さん）

- ・ 先年度から日本語支援委員会の委員長を務めている。従来の多文化共生委員会では役割が不明確で広くなりがちだったので、日本語支援に注力するため日本語支援委員会にした。
- ・ 佐野さん同様学校での支援と日本語教室を行っている。
- ・ 学校での支援については、基を作ってくださったのは当時副会長だった西村さんで、その意志をついで活動している。当時は南米系の人が多かったが、今はおらず、ベトナム、中国、アメリカ、フィリピンの方である。子供は家庭の難しい事情がある中で生活しており、家族とどこまで関わるべきかが課題と感じている。立ち入れないが見過ごせない部分がある。
- ・ 委員会への加入は、FAIRの会員になることや、情報交換を円滑にするためのメーリングリストへの参加など、いくつかの条件を設けている。学校に入り込み、先生や担当以外の生徒と関わることもあるため、それなりに身分が明確である必要があり、市の国際交流の課長に付き添ってもらって挨拶に行くなどのプロセスを設定している。ACCが開催しているボランティア養成講座（全10回）の受講や、その他研修などによるスキルアップを図ることを加入条件としている。
- ・ 活動について重要と感じるのは、やはり親の理解があることである。日本語の出来ない親もうまく巻き込んでいくため、毎月第3日曜日、とにかく来て日本語を話しましょうという事で、子供と一緒に親にも集まってもらえるよう呼びかけている。また、ただ集まるのも敷居が高そうなので、日本料理の紹介などを通して、とにかく親とのコミュニケーションを図れるようにしている。

### 富士宮市国際交流協会（垣内さん）

以前ACCで働いていた。現時は市のイベントに参加したりしている。支援には興味はあるもののあまりできていないが、時間の許す範囲で活動していきたい。5月からN3,N4を受ける実習生を対象に団体が立ち上がったので、月一回参加している。

### 富士宮市国際交流協会などで活動（西村さん）

- ・ 再度FAIRに登録したのでまた活動したい。
- ・ 3月までACCで日本語講師をしていたが、熱海国際観光専門学校に移ってベトナム人5人を教えている。
- ・ 地域の活動やACCなど多方面に関わってきたが、そろそろやってきたことを還元するような活動をしたと考えている。オンラインで関係ない人と話をしたり、知り合いで勉強をしたい人に日本語や勉強を教えている。一つのキーワードとして「やさしい日本語」がある。これだけ社会に外国人が増えてきてわれわれがどういう社会を作っていくかという課題に対する解決策として取り組んでいきたい。まだどのような形で活動するかわからないが、広げて行きたい。武蔵野大学で「未来の先生展」に出展しようとしている。

## 沼津にほんご教室、親子にほんごひろば、日本語ボランティア派遣、静岡県静東事務所の日本語支援コーディネータ（虎谷さん）

### ○沼津にほんご教室

- ・ 一時学習者が一桁程度まで減ったが最近では 20 人以上に戻ってきた。インタビューのときに学習に関するニーズの調査をして、応えられるようにしたいという案が出た。今後運用する予定。
- ・ facebook を始めた。講師、学習者とも登録できるようにし、拡散してもらうよう努力している。外国人が一気に拡散してくれことがある。チラシ持ってこなかった（⇒こちら）

### ○親子にほんごひろば

- ・ 親が子供を連れてくるような熱心な人だけが続いている状態である。

（質問）学校へのボランティア派遣には交通費支給されていますか？

⇒同じ団体の活動の一部では交通費が支給されているのに対し、学校派遣には支給されていない状態なので、少しでも支給されるよう要請している。

（補足）

やさしい日本語（「やさいち」）はとても大事。今までは、小中学校に外国人が入ってくるとバイリンガルの人頼みだったが、それには限界があるので依存しすぎず、日本人がやさしい日本語で日本語を教えることが必要。市教委や各学校にわかってもらうよう広めようとしているので、ご協力よろしくお願いします。学校に入るボランティアが受講できる養成講座などを市に開催してほしいと思っている。

## 伊東（福岡さんより事前連絡）

イベント周知 7月2日（日） 伊東でタライ乗りレース、 8月4日（金） ディズニーパレード

## SIR（古橋さんより事前連絡）

### ◆お知らせ

静東教育事務所と静西教育事務所に「日本語支援コーディネーター」が1名ずつ配属されました（東は虎谷さん）。

外国人の永住・定住化が進む中、子どもの日本語習得の課題を「単なることばの問題」として通訳対応で終わらせるのではなく、進学や自立を見据えた日本語指導が重要であり、そのための人員・予算配置措置をとるべきである、ということ市町教委に働きかけをしています。とはいっても、ピンときていない市町も多く、なかなか理解も深まらないので、まずは県が取り組もうという試みで配置されました。まあ、非常勤ですけどね。コーディネーターは自身が指導者として子どもに日本語指導をすることもありますが、今年度は子どもの目標を見据えてシラバスを組むことを予定されています。当面、県教委・県多文化共生課・県国際交流協会と連携を図って従事していただきます。

### ◆外国人の子ども支援員養成講座

①日本語が話せる外国人を対象に日本語の初期指導について学ぶ講座（掛川市：全3回）と、②学習につなげるための日本語指導について学ぶ講座（焼津と沼津：全4回）の2種類が開かれます。

<http://www.sir.or.jp/news/detail/id=1256>

<http://www.sir.or.jp/news/detail/id=1257>

子ども支援に関わっている方、よろしければお申込みください。

## (2) 来日児童支援 (1 時間)

### 本日の流れ

- ①本テーマに取り組む背景の確認
- ②日本語支援コーディネーターについての紹介 (虎谷さん)
- ③横並び表の活用について考える
- ④今後の定例会における本テーマに関する時間の使い方

### ①本テーマに取り組む背景の確認

背景、目的のおさらいをした。現段階での目的は各市町の来日児童支援について、現状を把握し、関心を高めること。

### ②日本語支援コーディネーターについて (虎谷さん)

県教委が運営する外国人児童生徒トータルサポート事業という事業がある。事業内容は以下のとおり。  
事業内容：県内の外国につながる児童生徒への教育に対応するために外国人児童生徒相談員、スーパーバイザーを任用し、外国人児童生徒の適応指導、指導担当者への助言、援助などを行うと共に、市町教委の情報交換を図ることを目的として行う事業。

学校で活動するのはスーパーバイザーと相談員。それぞれの役割は以下の通り。

スーパーバイザー：外国人児童生徒等への教育を実施する市町教委への助言及び、日本語指導が必要な外国人児童生徒などへの指導、相談を行う (ポルトガル・スペイン語 1 人、日本語 1 人 (虎谷さん))。

相談員：市長教委への助言はせず、小中学校および特別支援学校の児童生徒のうちポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、ベトナム語等を母語とし、日本語指導が必要な外国人児童生徒など及び関係するものに指導を行う (ポルトガル・スペイン語 1 人、フィリピン語 2 人、中国語 2 人→4 人)。

なお、独自にバイリンガル支援員を持つ市町もあるが、対応言語の支援員がない場合は県教委に要請して上記相談員に来てもらっている。例えば沼津市ではスペイン語とフィリピン語の支援員のみのため、中国語の相談員をお願いしている。

### 派遣要請の流れ

該当児童生徒が編入した場合、学校側から静東教育事務所に派遣を要請し、だいたい月 1 回訪問 (例外あり)。申し込み期日はあるが、随時派遣できるようになっている (9 月に来日しても OK)。担任→校長から要請がない限り派遣されない。

現在、東部は要日本語指導児童生徒数や特別の教育課程を編成している学校は多くなく、加配教員も小学校 8 校にしかない。今年度から 10 年かけて一つの学校に 18 人要日本語指導の児童生徒が在籍すれば加配を配置するような制度に変更していく予定。取り出し支援を行うには、特別の教育課程を編成して教員免許がある人が立ち会うという条件があるが、入学前ならプレスクールを行うことは可能。また放課後支援も同様に縛りが無い。

バイリンガル相談員は数が限られており、全言語にも対応していないので、日本人が「やさになち」で教えることができる体制を広めていきたいと思っている。今年度はモデル校 (静西、静東で 3 校) でコースデザインを作成し、「子供サポーター (SIR 養成講座修了者)」を県から各学校に派遣して実践する。

今後の参考に各市町の状況についてお聞きしたい。

伊豆の国：いないと思う。

清水町：ニーズが多くあり、今年度予算がついて 1 名支援員を増員 (ポルトガル語)。

富士宮：学校教育課が3年前から動き出した。現在3校に派遣している。

(その他の市町についても具体的な事例を共有した)

毎年度はじめ、各市町教委に報告される要日本語支援児童生徒数は、学校側が日本語や学級での学習に支援が必要と認識した場合のみ報告されるため、実情との乖離がないか懸念される。

対象が、帰国日本人、日本国籍を持っているが外国にルーツを持つ、外国籍の3段階になった。

県は、将来的には各市町でボランティアではなく相談員を雇い、対応してほしいと考えている。また外国につながる児童生徒支援は必ずしもバイリンガル相談員でなく日本人が「やさしにち」でできることということを広めていきたいと思っている。

(意見) バンドスケールの活用などは有効と感じる。できれば講師をしていただくのがオススメです。

(質問) 制度についての担任の認知度は？

通知は7月以降。ただ、県教委→市町教委→各学校長という流れで周知されるので、まだ周知には時間がかかる。一番困り感の強い担任に確実に届いてほしいと思っている。

(意見) 一部の意識の高い人のみに適用されるのはもったいないと感じる。外国のケースで、ホームドクター制度が浸透していて、特別な支援が必要な旨も判断していることなどを考慮すると、学校だけに頼らないような制度を整備する努力も必要だと感じる。

虎谷さんが動きやすい立場になったので活躍に期待しましょう。日本語支援コーディネーター任用については古橋さんの長年のご尽力の結果で感謝している。今後も各市町の情報を知りたいので皆さん教えてください。

### ③横並び表の活用について考える

○横並び表作成についての経緯の説明

○虎谷さんより情報の修正、補足の説明(後日横並び表の修正資料を作成してくださった。)

○横並び表の内容についてのフリーディスカッション(必要に応じて発言者を明記)

・(虎谷) ボランティアと意見交換会を行った。沼津も富士宮と同様に要請講座を受けてから入るべきだと思うので、市に要請した。今後は、カリキュラムを作成して、それに則って指導し、一貫した支援を出来るようにする必要があると思っており、学校に提案しようとしている。ただだとひらがな指導で1年が終わったりする状態にならないようにしたい。中国人は漢字学習がやや楽、など個人的な事情も考慮したい。

・(石井) 予算の点で、のびっこ(ぽよ)は現状無償なのだが、ある程度つけてもらった方が動きやすいと思う。学校での支援は「教育のくくり」の中でやって欲しい。実態はなんでも任されてしまう部分がある。多少でもお金をいただいて、それに対する責任も負って活動したほうが良いと思う。

・伊豆地域は各地域が小さすぎて、人数が少ないので体制が築かれづらい。市町独自では難しいので、広域で支援しながら体制作りをできると良いと思う。

・伊東は市でもできるだろうか？

・(久木野) 伊豆の国については話そう会で算数などの支援はできます。

・他の地域から応援に行くなど、いくつかの体制をミックスして対応しないと難しいのでは。

・とにかく散在(散住)地域での対応が大きな課題である。

・(久木野) 函南町や伊豆市の方が話そう会に見学に来たことがあったが、とてもできないとの感想を持たれていた。理由は聞いていないが、人員などだと思っている。

・ボランティア人材はいると思う。そこまで考えが及んでいないこともあるのではないかな。

・(来日児童に関係ない) 支援員と(来日児童の)相談員や支援員の連携はある？⇒現状無い。

・清水町や長泉町で支援員が来日児童に教えていることはある。各市町が外国人の支援員を雇い始めている。

- ・(吉田) 経験から言って支援は外国語が出来なくても出来ると思う。聞こえてくる日本語に対して、それがどういう文字かということを教えてあげれば良く、日本語で指導して良いと思っている。
- ・(虎谷) そう思います。そのように関係者の考え方を変えていくのも自分の役割だと思う。
- ・理科など教科の理解に行き詰まる子がいるが、日本人にも同じような子はいる。ボランティアをするにあたって教科の勉強の知識も持つようにする必要があると思う。
- ・指導のために算数を勉強しなおしたりしている。今の学校の教え方で教えなくてはならないので難しい。
- ・高校生の選択科目などの勉強などもあるので、すぐ対応できないことはよくある。ボランティアも一緒に勉強する姿勢でやっていくしかない。若い力をかして欲しい。
- ・(石井) 三島が「静岡寺子屋」のモデル市になった。大学生の力を活用して、放課後に学習支援教室を開くというもの。対象は来日児童に限定しない。6月下旬から徳倉小、北上中に入る予定で、日大などで募集している。3年間の研究事業で、その間は予算が出る。
- ・三島では地域で学校を支援しようという活動も始まっている。
- ・教育体制についてそもそも、学級の人数を25人などにすると解決する部分もあると思う。

#### ④今後の定例会における本テーマに関する時間の使い方

合意内容：今後の定例会においては、来日児童に関する情報交換も活動報告に含めて区別せずに話し合う。

(意見) 良い情報交換になるので一緒に良いと思う。(多文化共生という枠) 全体として考えても大きな問題なのでそれで良いと思う。

次回定例会は11, 12月くらいに開催します。